

図書館だより

第352号

2012年2月



〒323-0807 小山市城東1-19-40 小山市立中央図書館 編集

図書館ボランティア募集

- 対象 図書館ボランティアに関心があり、年間を通じて活動できる方(学生も可)
- 活動 中央図書館・小山分館・間々田分館の返却された図書類の整理や修理など
- 報酬 無償
- 事前説明会 3月11日(日) 14時～16時
中央図書館 会議室
(新規申込みの方は出席願います。)
- 申込み 2月21日(火)～3月10日(土)に直接または電話で
中央図書館中央サービスデスク21-0750



お知らせ



- ◆本の森の音楽会
日時 3月4日(日) 午後2時～3時30分
内容 「下野楽遊 奏楽塾」による
フォルテピアノと弦楽合奏
会場 中央図書館 2階 視聴覚ホール
定員 100名(入場無料)
申込み 整理券を2月8日(水) 午前9時から
中央図書館2階サービスデスク(21-0752)
小山分館(22-9575)
間々田分館(41-6230)において配布
電話でも可
- ◆農業なんでも相談室
2月2日(木) 午後1時～5時(要予約)
会場: 中央図書館 パソコンルーム(1)
申込み: 中央図書館中央サービスデスク21-0750
- ◆おしえてください! あなたの1冊
たくさんの方々より応募がありました。裏面に一部掲載させていただきます。

開館時間

中央館: 火～日・祝 午前9時～午後7時
分館: 火～日 午前9時～午後6時

2月の休館日

〔○は休館日〕

中央館						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

小山・間々田分館						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

行事予定

子ども向け行事のだいたいの対象年齢です。

0～3歳向き 4～7歳向き 8歳～

2月1日(水) 午後3時30分～
★おはなしウェンディ(中央図書館主催)
おはなし えほんなど
会場: 中央図書館 児童開架室

2月3日(金) 午前11時～11時30分
★おやま分館おはなしかい(小山子どもの本連絡会主催)
えほん かみしばいなど
会場: 中央公民館 和室

2月8日(水) 午前10時30分～
★おはなしこんにちは(おはなし水曜会主催)
えほん かみしばいなど
会場: 中央図書館 児童開架室 おはなしコーナー

2月12日(日) 午後2時～
★おはなしメロディ(かがやき主催)
プログラムは未定です。おたのしみに
会場: 中央図書館 児童開架室 おはなしコーナー

2月14日(火) 午後3時30分～4時
★まだまだ分館おはなしかい(中央図書館主催)
おはなし えほんなど
会場: 間々田市民交流センター 和室1・2

2月15日(水) 午後3時30分～
★おはなしウェンディ(中央図書館主催)
おはなし えほんなど
会場: 中央図書館 児童開架室 おはなしコーナー

2月22日(水) 午前10時30分～
★おはなしびっくり箱(おはなしびっくり箱主催)
プログラムは未定です。
会場: 中央図書館 児童開架室 おはなしコーナー

2月26日(日) 午後2時～
★おはなし会(はなしのこべや主催)
おはなし えほんなど
会場: 中央図書館 児童開架室 おはなしコーナー

お問い合わせ

中央図書館 0285-21-0750
小山分館 0285-22-9575
間々田分館 0285-41-6230



小山市立中央図書館



豊かな人と地域を創る図書館

◆おしえてください！

あなたの1冊の応募作品です

「赤毛のアン」 モンゴメリー／著

一人の少女アン、カナダの美しい島プリンス・エドワード島を舞台にしたお話ですが、読んでみるとグリーンゲイブルスを中心とした様々な季節がおりなす風景が思い浮かび、主人公がすごく身近に感じられるところがすごく気に入っています。



「アルジャーノンに花束を」 ダニエル・キイス／著

初めてこの本を読んだのは高校生の時だったのですが、数年に一度は読み返しています。精神遅延のチャーリーが手術を受け、高い知能を持つことになり、周囲の人との関係も変わってきて、何がその人にとっての幸せなのか考えさせられます。読むたびに印象がちがうのでおすすめしたいです。

「永遠の0」 百田尚樹／著

「生きて帰る」ことにこだわったゼロ戦パイロット。愛する人を守るため真の勇気とは何かを考えさせる一冊です。勇気とはただやみくもに勢いをもって振る舞う行為ではなく、時として別の角度から見れば臆病のように見えるもの。大切なものをしっかりと把握している人は強い。涙が止まりませんでした。



「がばいばあちゃんの勇気がわく50の言葉」 島田洋七／著

以前TVドラマで「佐賀のがばいばあちゃん」を見た時、貧乏だけど元気で笑顔を決やさないばあちゃんの姿に共感し、すっかりファンになってしまった。そのばあちゃんの言葉は、くよくよしても仕方がない！と元気づけてくれるし、人にも優しくできる様な感じがする。今の私達が忘れていた何かを気づかせてくれる1冊です。



「風が吹くとき」レイモンド・ブリッグズ／著

絵本ということで、子どもの頃に何気なく手に取り読みました。核兵器の恐ろしさや平和に暮らす人々が気づかぬうちに戦争に巻き込まれ犠牲になってしまう恐怖をリアルに伝える一冊です。東日本大震災によって今まさに見直されている核や、各国の戦争について考えるキッカケになる本だと思います。

「くじけないで」 柴田トヨ／著

著者は栃木市生まれで、現在は宇都宮市在住、今年100歳になった詩人です。90歳を過ぎてから詩を書き始め、この本は処女詩集で、150万部を超えるベストセラーになったそうです。タイトルにもなった「くじけないで」や、「あなたに」の詩が私は特に好きで、読むたびに励まされます。勇気を与えてくれる素敵な本です。



「ゲーテ詩集」 ゲーテ／著

私は「ゲーテ詩集」の「処世のおきて」を日々の支えとしています。一喜一憂する私にとって、なんと心強い勇気もらえる格言だろうと感動しています。朝、声を出して読み、一日が始まります。さあ！！元気でいこう！！「気持ち良い生活を作ろうと思ったら 済んだ事をくよくよせぬこと 滅多な事に腹を立てぬ事 いつも現実を楽しむこと とりわけ人を憎まぬこと 未来を神にまかせること」

「コンビニもない町の義肢メーカーに届く感謝の手紙」

中村俊郎／著

この本は、「次の世代に手渡したい本」の1冊です。シリコンゴム製の義肢装具を製造・販売する中村ブレイス。島根県の片田舎にあるこの会社に世界中から寄せられた感謝の手紙の数々。誰かのために働くということを考えさせてくれる本です。



「神秘的島」 J・ベルヌ／著

SFの父といわれるヴェルヌの作品です。明治の初期に書かれたものですが現代社会を予言させるような箇所がいくつもあり、その発想と想像力に驚かされます。児童向けの本ですが大人が読んで十分に楽しめると思います

「スコーレNo. 4」 宮下奈都／著

ひとりの少女が家族の中で、悩んだり、戸惑ったり、落ち込んだりしながらも、大人の働く女性に成長していく姿に自分自身の昔を思い出し共感と感動を覚えました。特にこれから社会に出て働く女性の方に読んでいただけたらと思います。



「三国志」 吉川英治／著

子供の頃読んだ「三国志」は、面白いヒーロー活劇でした。社会人になり、もう一度読み返すと、それは人間関係の在り方や、仕事の戦略を立てる上でのビジネス書に変わっていました。名作は何度も読み返して楽しめると思います。またこの本を開く時、今度はどんな感動と出会うか、今から楽しみです。

「ねこじま」 関由香／著

ねこじまは、宮城県にある田代島のことで、猫がたくさんいることで知られているそうです。この本にはたくさんの猫たちと風景が写されています。とても穏やかですが、この風景も猫たちも、3月の津波で流されてしまったのかと思うと悲しくなります。文章はありませんが、いろいろなことを感じさせてくれました。



「持たない暮らし」 下重暁子／著

自分の部屋が物で溢れ、困り果てている時、「断捨離」という言葉が流行り始めたのをきっかけに、関連の本を読んでみた。この本には何でもかんでも捨てればいいというわけでもない事や、物を通じて、自分の人生の時間の使い方を考え直すような素敵な事が書いてある。あとはこの本を片手に、行動に移すのみだ。



「乱紋」 永井路子／著

いま大河ドラマになっているお江のお話だが、通説とまるで違っているお江です。その視点にまずびっくりし、このお江の生き方が好きになり、他に描かれているお江をみたくなくなりました。著者は今までの通説を自分で調べてひっくり返す本をいろいろ書いているので、それらもおすすめです。

「作者消失」 赤川次郎／著

以前より、赤川作品は好きで、よく読んでいましたが、この作品は他のシリーズの主人公が総出演しており、おもしろさ満点、作者のサービス精神も感じられてとても気に入っています。

